

ご挨拶



旭川赤十字病院 院長 牧野 憲一

旭川赤十字病院は1915年、札幌にて誕生しましたが旭川の医療提供体制を充実させるため1923年に旭川に移転しました。それから100年が過ぎました。現在では、救急医療と高度急性期医療において道北地区の中心的な基幹病院として地域医療を支えています。旭川赤十字病院の診療の基本姿勢は地域の医療機関と共に患者さんを診ていくことです。2004年に地域医療支援病院の指定を受けその姿勢を明確にしました。2008年には当院の電子カルテ情報をインターネット経由で参照できる旭川クロスネット（現在のたいせつ安心医療ネット）の運用を開始し地域の医療機関への最大限の情報提供を継続しています。また、旭川赤十字病院では地域の診療所の先生と一緒に患者さんを診ていくという姿勢を明確にするため入院時には必ず“かかりつけ医”を確認しています。そして“かかりつけ医”に入院したことの通知、退院したことの通知に加えて退院サマリーをお送りしています。さらに、患者さんの紹介を頂きやすくするために医療機関からのFAX予約に加えて、一部診療科ではありますが患者さん自身からの予約を可能としています。今後はこの診療科を拡大していく予定です。

旭川赤十字病院は救急医療においては道北地区の最後の砦としての役割を果たしていますが、がん診療などの通常診療においても高いレベルの診療を行っています。2022年に導入したダビンチ手術は泌尿器科、消化器外科、呼吸器外科にて順調に症例を重ねております。外科では道北地区で唯一の肥満に対する手術治療を行って良好な成績を上げています。外科では乳腺外来を開始しましたが、形成外科と協力して乳房再建にも積極的に取り組んでいます。また脳神経内科では認知症治療薬「レカネマブ」治療も開始しています。来年には高齢者の心不全に対応するための心不全のリハビリ治療もスタートします。

旭川赤十字病院はこれからも地域の医療機関と共に、道北地区の人々の健康を守るべく取り組んで参ります。今後とも宜しくお願い致します。